

# 令和5年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 中島 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査（国語、算数）

##### 教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

#### (2) 児童質問紙調査

##### 児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に、全国平均正答率を上回っている。</li> <li>・「話すこと・聞くこと」領域は、比較的正答率が高い。「書くこと」領域は、全国平均正答率を下回っている。</li> <li>・問題形式として、選択式は比較的正答率が高い。</li> <li>・全ての問題に対して無回答率は0%で、全国平均無回答率をすべて下回っている。</li> </ul>
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題、送り仮名に注意して、漢字を文の中で使う問題は正答率が高い。</li> </ul>
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる問題は、正答率が低い。</li> <li>・情報と情報との関係について問う問題は、正答率が低い。</li> </ul>
算数	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に、全国平均正答率を上回っている。</li> <li>・「データの活用」領域は、比較的正答率が高い。</li> <li>・問題形式として、選択式、短答式、記述式のどれも全国平均を上回っている。</li> <li>・全ての問題に対して無回答率は0%で、全国平均無回答率をすべて下回っている。</li> </ul>
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伴って変わる2つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の甲の知りたいた数を求める問題は、正答率が高い。</li> <li>・示された棒グラフと複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述する問題は、正答率が高い。</li> </ul>
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伴って変わる2つの数量の関係が比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組み合わせを用いる問題では正答率が低い。</li> <li>・「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取る問題は、正答率が低い。</li> </ul>

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校での学習に関する項目では、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合は全国平均を上回っている。また、「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」に対しても、全国平均を上回っていた。</li> <li>・家庭等での学習に関する項目では、「自分で計画を立てて勉強をしていますか」に対し、「よくしている」「ときどきしている」の割合は、全国平均を下回っていた。また、「土曜日や日曜日など、学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」に対し、「1時間未満の割合が全国平均を上回っていた。家庭学習についての見直しが必要である。</li> <li>・ICTの活用に関する項目では、「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」に対し、「週3回以上」の割合が全国平均を下回っていた。</li> <li>・学校の楽しさに関する項目では、「人と違う意見について考えるのは楽しい」に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合は全国平均を上回っていた。しかし、「人が困っているときは、進んで助けていますか」に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合は全国平均を下回っていた。</li> <li>・自尊感情に関する項目では、「自分にはよいところがあると思う」の割合は、全国平均を下回っていた。学校生活の様々な場面で、自尊感情を高める手立てが必要である。</li> <li>・生活習慣に関する項目では、「毎日同じくらいの時間に寝ている」の割合は、全国平均を下回っていた。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語については、特に「書くこと」領域に課題があった。自分の考えをまとめる活動を学習に取り入れ、書くことを充実させた授業づくりに取り組む。</li> <li>・算数については、思考力を問われる問題に課題があった。「問題の解き方がわかるように書く」「言葉や数、式を使って、わけや求め方を書く」等、書く活動を充実させた授業づくりに取り組む。</li> <li>・全教科においてICTの積極的な活用を図っていく。</li> </ul>
---

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年の学習内容を確認し、家庭学習の内容や量について全教職員で共通理解を図り、全校の取組としていく。日々の児童への指導はもちろん、家庭学習の定着においても、担任だけでなく全教職員でサポートしていく。</li> <li>・自尊感情を高めたり仲間と協力したりする活動に全校で取り組む。</li> <li>・児童や保護者を対象に実施している「学期末アンケート」（年間3回）を通して、児童の学びや生活の実態を的確に把握し、取組を進めていく。</li> </ul>
---